

国指定重要文化財<無形民俗>

きくち まつばやし 菊池の松囃子

指定日 平成10年12月16日

所在地 菊池市隈府(上町)



菊池の松囃子は、最も古くから菊池市において伝承されている芸能の一つであり、毎年10月13日菊池神社秋の大祭に、菊池高校前に建つ菊池松囃子能場で演じられている。

その起源については定かではないが、現在伝承されている詞章^{ししやう}などからみて、室町期から継承されているものと考えられている。宝暦7年(1757)の「菊池松囃子起源書」によると、南北朝時代、菊池15代武光の時に征西将軍として下向した懐良親王^{かねなが}のために、正月の祝言^{しゅうげん}として守山城^{もりやま}内で行われたのが始まりという。当時は正月2日であったが、後に武光出陣中により正月の松囃子ができずに凱陣を待ち、7月15日に行ったのが恒例となった。

松囃子は舞人^{まいびと}1名、大鼓^{おおつづみ}2名、太鼓^{はやし}1名の囃子方^{しかた}と不定数の地方^{じかた}及び後見1名により演じられる。舞の振りが古風であり、謡も素朴な要素をとどめ、能の変遷^{へんせん}過程を知る上で大変貴重である。